

うじ虫の徘徊(はいかい)

市民から「3月下旬,数日に渡って台所や流し台にうじ虫が出て来る。」との相談が保健センターにあり,保健センターから10匹のハエ幼虫が衛生動物部門に送られてきました。

幼虫の鑑別点

ハエ幼虫の鑑別点の幾つかをこの検体を基に紹介します。まず,幼虫の体の表面には,特別な突起や毛などがなく,円筒形で黄白色をしています。ただ,体の末端部分には,肉質状の突起と一対の後方気門と呼ばれる器官があります。後方気門は,非常に重要な鑑別点で,今回の検体は形が大きく,その周りは環状に黒く着色しているなどの特徴がありました。以上のことからクロバエ科の種類の幼虫と判断しました。

説明内容

保健センターの担当者には「種名を鑑別できませんでしたが,クロバエ科の幼虫です。クロバエ科の幼虫の多くは,くみ取り便所の便池,放置された生ゴミ,動物の死体に発生することが知られています。今回のように大量に家屋内にはい回る事例では,次のようなことが考えられます。家屋内の天井裏や壁間でネズミが死に,そのネズミをクロバエ科の幼虫が餌にしていたと思われます。やがて,成長した幼虫が餌のネズミを食べ尽くしたために,他の餌を求めてはい回っていたと思われます。考え方を変えれば,ネズミの死体を掃除していたことになります。出てくる幼虫を割りばしなどでつまみ取り,ビニール袋などに入れ,処分するだけでよいと思われます。」と説明しました。

種名の特定

クロバエ科の幼虫は,種類を鑑別するのが難しいのですが,成虫は,鑑別可能なことが多いようです。検体の10匹は,生きていました。2匹の幼虫のみを熱湯に入れ,殺したうえ,アルコールによる液浸標本としました。残りの幼虫を飼育し,成虫の羽化を待ちました。当研究所でマウスの飼育に使っている固形飼料に水を加え,軟らかくしたものを餌として与えました。9日後に蛹(よう)化が始まりました。その17日後,羽化が始まりました。出てきた成虫は,オオクロバエでした。

オオクロバエ成虫の特徴

昆虫,特にハエの仲間を鑑別するに当たって,翅(し)脈は,非常に重要です。クロバエ科の翅脈の特徴は, M_{1+2} 脈が鋭く曲がることです。背側剛毛が2本であることもクロバエ科成虫の特徴の一つです。オオクロバエの特徴は,幾つかありますが,名前のとおり体全体が黒色であること,腹部が少し青み掛かった黒色の金属光沢を示すこと,前胸気門が鮮やかな橙色であることなどです。さらに,オスの生殖器は,近縁種との重要な鑑別点となります。

オオクロバエの季節的消長

俳句でうじ虫は,夏の季語だそうです。ところが,オオクロバエ,近畿地方では,今回の事例で分かるように3月や4月,そして10月に成虫が活動するのが一般的です。



運び込まれたハエ幼虫



後方気門(プレパレート標本)



多数のサナギ



鋭く曲がる M_{1+2} 脈



前胸気門



雄の生殖器

羽化した成虫